

# 松波むかし語り—ここに住み続けて その6

今回のお客様

千葉松波郵便局長は子ども大好き人間！

石崎 弘之<sup>さん</sup> 50歳 1丁目

松波郵便局のルーツは、なんと昭和20年3月10日の東京大空襲にあったというお話……。

“どんな子も、ボールが投げられる子、キャッチボールのできる子にしてあげたいですね！”

石崎さんが紙袋から取り出したのは、昭和20年3月9日と翌10日の日付の入った「深川永代郵便局」の古びたスタンプ。そうです、東京大空襲のあった日ですね。「現在の千葉松波郵便局の原点はこれなんです。祖父が東京の深川で郵便局を開いていたのですが、空襲で郵便局は丸焼け、翌日、焼け跡に行ってみると、たった一つ残った金庫の中からこれが出てきたんだと聞きました」。

お祖父さんは、松波の今の土地を買ってあったところへ、たまたま昭和35年から続いていた松波郵便局が閉まるというので代替りの局長を募集していたことから、手を挙げたのだそうです。石崎さんのお父さんが松波郵便局を始めたのが昭和41年4月1日、それから63年6月、亡くなるまで局長を務めました。石崎さんは、それまでの会社勤めを辞めて、この月の23日、お父さんに代わって郵便局長の辞令を受けました。



昭和41年頃の松波郵便局

すると、二代目石崎局長は20年を過ぎたんですね？ 「そうなんです。無我夢中でがんばってきました」。民営化によって、仕事は変わっていますか？ 「事務量は増えていますし、お客様の個人情報の取扱いも厳しくなったりしています」。松波郵便局の成績はどうなのでしょう？ 「切手・はがきの販売、定期性預金、カード・年金、簡易保険といったそれぞれの分野で、平均的にがんばっている局ですね。今年、これまでのところでは、千葉・市原管内135局の中で10位前後の成績です」。それはすごいですね、石崎さんのがんばりも大きいのでしょうか。

6年間、弥生小のPTA会長も務めておられましたね？ 「おかげで、子どもたちからも道であいさつを受けることがあります」。何か会長として努力されたことは？ 「バレーボールやソフトボールを通じて、お父さんお母さんが学校に来てもらえるようがんばったことですね。卒業式では、『お父さんお母さんを尊敬しなさい』と同時に、『社会は楽しいこ



とばかりじゃないけれど、夢を忘れないで持ち続けてほしい』と言ってきました」。この街の印象をうかがってみました。「弥生小はボランティアも多く集まりますし、住民の意識がそれだけ高いのでしょうか。松波は落ちついた街です」と語る石崎さん、「局長を辞めたら、子どもたち全員がソフトボールを投げられるようにしたい」のが夢とか。子ども大好き人間の顔に変わりました。